2021 年 8 月 11 日

横浜ゴム、オリックス自動車とタイヤソリューションサービスの実証実験を開始

横浜ゴム（株）はオリックス自動車（株）の協力を得て、新たなタイヤソリューションサービスとして当社が開発したタイヤ空気圧の遠隔監視システム（Tire air Pressure Remote access System＝TPRS）の実証実験を 8 月より開始しました。実証実験はオリックス自動車のカーシェアリング事業であるオリックスカーシェアの車両に「TPRS」を導入し、東京都と神奈川県の首都圏の一部で実施します。

今回の実証実験は CASE※1、MaaS※2 など自動車業界の変革に対し、当社の「TPRS」の効果を検証するものです。タイヤメンテナンスの省力化や精度の高いタイヤ管理、効率的なメンテナンス計画など車両保有者にとっての有効性を探るとともに、安定的な安心・安全運行や燃費向上など車両利用者にとってのメリットを検証し、車両保有者と利用者双方の安全性や経済性の向上に貢献するビジネスモデルの確立を目指します。

「TPRS」はタイヤの空気圧や温度、車両の位置情報をリアルタイムでリモート監視することができるシステムです。タイヤメンテナンスの大幅な省力化に加え、点検のバラツキ防止、異常検知による事故防止、適正な空気圧維持による燃費向上などに貢献し、検知データはリアルタイムでクラウドサーバーに保存します。「TPRS」はより厳しいタイヤ管理が求められる運輸・物流事業者向けに展開してきましたが、CASE、MaaS の発展による乗用車用タイヤの「生産財化」を見据え、このたび乗用車向けの検証を開始しました。

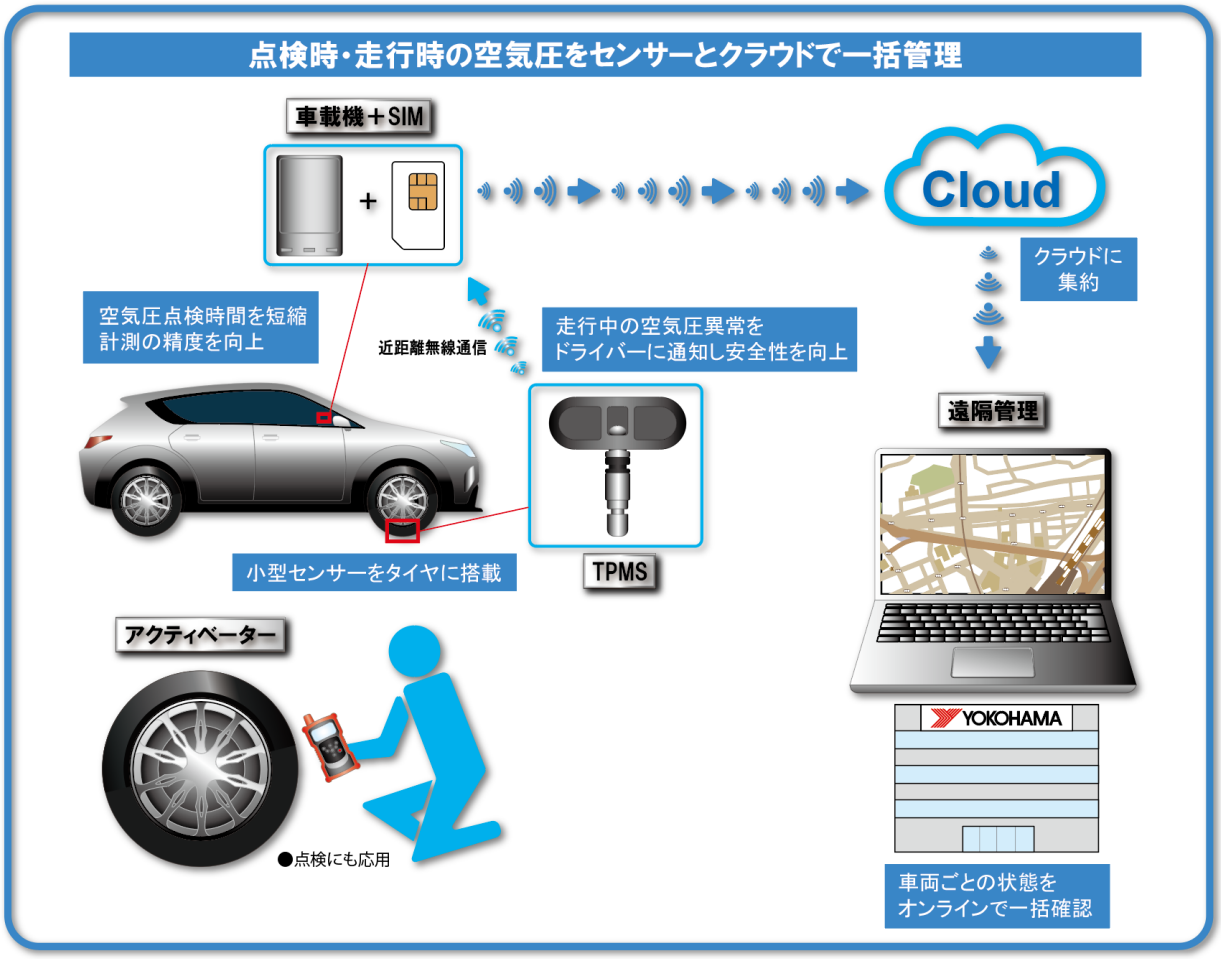
横浜ゴムは 2021 年度から 2023 年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2023（YX2023）」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーサン）における CASE、MaaS への対応策として、センシング機能を搭載した SensorTire（IoT タイヤ）の開発と機動的なサービス力の強化による新たなタイヤソリューションサービスの展開を掲げています。2 月には乗用車用タイヤセンサーの中長期的な技術開発ビジョン「SensorTire Technology Vision」を発表し、IoT タイヤから得られた情報をドライバーや様々な事業者に提供することで新たなモビリティ需要の変化に対応しつつ、安心・安全な運行に持続的に貢献することを目指しています。この実現に向けた活動の一環として、異業種との実証実験を行っています。

※1：Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared & Services（カーシェアリングとサービス／シェアリングのみを指す場合もある）、Electric（電動化）の頭文字をとった造語

※2：Mobility as a Service の頭文字。地域住民や旅行者の移動ニーズに対応して複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済などを一括で行うサービス。

横浜ゴム株式会社
THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.
〒105-8685 東京都港区新橋 5 丁目 36 番 11 号
36-11, Shimbashi 5-chome, Minato-ku, Tokyo 105-8685, Japan

【タイヤ空気圧の遠隔監視システム（TPRS）の実証実験イメージ】



このリリースに関するお問い合わせ先

横浜ゴム（株）経営企画部　広報室　担当：岡

TEL：03-5400-4531　FAX：03-5400-4570